

PMP 座談会

日時： 2011 年 6 月 13 日(月) 13 時～15 時

場所： SIC 本社 7 階会議室



座談会参加メンバー：（左上から）

久田（第一統括部長）、梅原（営業本部長）、寺門（第二統括部長）、大山（管理部長）、増田（ITソリューション本部長）、平出（第三統括部長）、長瀬（取締役）、鈴木（専務取締役）、伊藤（品質管理担当部長）、立川（事業支援本部長）

マネジメントが率先して参加し、中核技術者 40 名が取得 （2005 年、第 1 回・第 2 回講習会）

鈴木：

PMP(注1)に関する取り組みは、当社の中核となる技術者全員が取得することを目標に、2005 年 1 月にスタートさせました。

我々だけではノウハウが少ないことから、評判の良い外部研修機関の株式会社タリアセンコンサルティング様をお招きし、社内で講習会を実施したのが始まりです。

第 1 回の講習会では、中核となる技術者 20 名を選抜して臨みました。その後 2005 年 1 月から 2005 年 2 月末まで、週末を利用して合計 5 回、35 時間の講習会を実施し、PMP の受験資格に必要となる単位を取得しました。

早い人は講習会終了後間もなく本試験にチャレンジし、3 月に 1 人目が合格したのを皮切りに、18 名が順調に PMP を取得することができました。

鈴木:

伊藤君、当時はみんな相当頑張ったね。

伊藤:

当時は、会社の中核となる社員が本気で取り組んでいて、休憩時間はPMPの話題で持ちきりでした。お互いにライバル意識をもって切磋琢磨していましたね。

長瀬:

合格者第1号は平出君でしたが、相当勉強したのでは？

平出:

はい。まずは独学で20~30時間勉強してから、タリアセンコンサルティング様の講習会を受講しました。その後、通勤時間も利用しながら合計200時間程度勉強したように思います。記憶が鮮明なうちに受験しました

立川:

本試験はオンラインで行うため、操作の注意点など受験に伴うアドバイスを平出君から聞くことができ、とても参考になりました。

鈴木:

PMPの本番の試験は4時間という長丁場ですね。立川君の試験本番での時間配分はいかがでしたか？

立川:

トレーニングのときは2時間程度で解いていましたが、さすがに試験本番では慎重に解いたので3時間程度かかりました。不安が残ったので、残り1時間は見直しに充てました。

鈴木:

久田君はどうでしたか？

久田:

私も本番では3時間以上かかりましたが、トレーニングのおかげでペースはつかめていたので、一通りの見直しをできる時間は確保することができました。

寺門:

私もトレーニングよりかなり慎重になってしまって、問題を解くだけで3時間かかりましたね。

長瀬:

平出君は 4 時間の制限時間の終了を待たずに退出したんじゃない?



平出第三統括部長

平出:

いえ、私も時間ギリギリまで試験会場にいました。時間をかけてゆっくり慎重に解いたので、見直しする時間はほとんど無かったですね。

鈴木:

私もトレーニングのときは 2 時間程度で解いていましたが、本番では 3 時間半程度かかりました。

鈴木:

増田君はどうでしたか? 余裕ありそうだったけど? (笑)

増田:

私もかなりトレーニングを積んだつもりだったのですが、やはり本番は時間がかかりましたね。結局制限時間ギリギリまで、見直しに時間をかけました。立川さんみたいに 1 時間も見直しはできなかったと思います。

梅原:

私は 4 時間の制限時間をフルに使いました。長く辛かった。ただ、落ちるわけにいかないと思い必死の思いで臨みました。前の日は徹夜で追い込みをかけましたよ。

鈴木:

第 2 回研修も 20 名を選抜し、2005 年 6 月にタリアセンコンサルティング様による講習会を実施しました。2005 年 9 月 30 日に 30 名突破記念パーティーを開催しましたが、そのパーティーの最中に 40 人目の合格の連絡があったことを今でも良く覚えています。結果的に、1 回目と 2 回目の研修に参加したほとんどの人が合格しました。

大山:

現在私は管理部の仕事をしているので、PMP を直接的に生かせる仕事はしていない(笑)とも言えますが、昨今の管理部門の仕事もプロジェクト指向ですから、PMP で学んだマネジメントの知識は非常に役に立っていますね。

対象を若手中堅層に拡大し取得者が90名を突破 (2006～2011年、第3～6回講習会)

鈴木：

PMP を実際に勉強してみると、実務面で役立つことが多いことを実感しました。そこで、さらに当社の次世代を担う若手中堅層にも取得するよう勧めました。

第3回(2006年12月)、第4回(2008年3月)、第5回(2008年7月)の講習会は、対象者を若手中堅層中心とし、タリアセンコンサルティング様をお願いして開催しました。結果として、新たに34名の合格者を輩出することができました。

順調にPMP取得者が増加し、社内の合格者が70名を超えたことから、今後は自社で育成ができる環境を作る必要があると考えました。そこで、第6回以降は自社で社内選抜試験を実施し、その合格者に対してはeラーニングにより受験資格を取得させ、本試験にチャレンジするよう推進してきました。

最近では年2回程度社内選抜試験を実施し、各自が受験資格を取得して試験を受けるというスタイルが続いています。若手技術者がチャレンジするケースが多いことから合格率は決して高いとは言えませんが、現在では90名を超えるPMP取得者を有するまでになりました。

選抜試験の問題集は、伊藤君に作成してもらいましたね。



伊藤品質管理担当部長

伊藤：

はい。もともとは私がPMPを受験する時に自分の勉強のために作成したのですが、これを他の人の受験勉強にも役立てたいと思い、問題集として新たに作成しました。この問題集で200問中150問正解した人は大体合格しています。

また2008年にPMBOKが第3版に改訂された際は、PMBOK第3版を隅々まで読み込み、問題集に変更内容を反映させました。

PMP 同好会の設立、会社あげでの取得支援 (2008年～現在)



(左から) 立川事業支援本部長、小澤内部監査室長

鈴木:

2008年8月にはPMP同好会を設立しました。PMP同好会には顧問、会長、事務局を置き、合格者の更新サポート並びに受験者に対する厚い支援活動を活発に行っています。

PMP同好会の初代会長は小澤君に務めてもらいましたね。

小澤:

はい。PMP取得のためにこれほどまで手厚くフォローしてくれる会社は多くはないと思います。同好会の活動のひとつとして、PMP取得者に対して有益と思われる書籍、例えばクリティカルチェーン、TOCなどに関する書籍を購入し配布しています。また日頃からPMとしての資質を磨けるような支援活動も活発に行っています。2010年秋からは会長職を立川さんに引き継ぎました。

立川:

2010年秋から第2代会長となり、初代小澤会長の意を受けて益々活発に活動しています。最近では社内でもマネジメント研修を実施するようになりましたが、当研修に参加することで、PMPのPDU(注2)を取得できるようになりました。

長瀬:

近年、お客様からPMO支援としてのオーダーが増加していますが、これはこれまでお話ししたようなPMPの推進を継続したことによる効果の表れと言えるでしょう。PMPの推進の結果、当社のビジネスの幅が着実に広がってきています。

鈴木:

そうですね。今後も会社の経営課題として捉え、経営陣としても全面的にバックアップしていくつもりですよ。

作間:

はい。私たち役員にとっても重要な活動ですね。



(左から)長瀬取締役、鈴木専務取締役、作間取締役

社員の半数を PMP 取得者に (将来)

鈴木:

PMP 同好会の献身的な支援もあって、現在では 90 名の PMP 取得者を有し、資格の更新も順調に進んでいます。また、各自が非常に熱意を持って自己研鑽に励んでいます。

今後ですが、当面の目標は技術者の 50%が PMP を取得することです。

キャリア採用でも、当社に入社し PMP の資格を取得したいという非常に志の高い応募者が増えていきます。PMP 取得者の結束を強め、同好会の機能を強化しながら、既存社員のみならず、キャリア採用で新たに入社した社員も PMP に合格し、資格を維持しやすいように会社としてもバックアップしていきたいと考えています

若手技術者にも、情報処理の基本情報技術者、応用情報技術者などの情報処理技術者のための各種資格を順調に取得した上で、PMP に積極的にチャレンジしてもらいたいですね。

注1) PMP(Project Management Professional)

米国 PMI(Project Management Institute) が認定するプロジェクトマネジメントに関する資格です。

PMI が発行する知識体系ガイド(PMBOK = A Guide to Project Management Body of Knowledge)

に基づくプロジェクトマネジメントエリアに関する知識と理解度ををはかることをその目的としています。

現時点ではプロジェクトマネジメントに関する国際標準的な資格となっています。

注2) PDU (Professional Development Unit)

PMP 資格の維持に必要な継続学習を定量的に認定するための単位